

■児童の学力の状況

- 「基礎タイム」(朝のモジュール学習)の積み重ねにより、漢字書き取りの力が向上してきた。
- 「全国学力学習調査」の結果から、課題をしっかりと把握し、何を問われているか理解する力が乏しい児童が多い。
- 読み書き、四則計算などの、基礎・基本の定着が不十分であり、主体的・意欲的に学習に取り組める児童が少ない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 児童が主体的に学習に取り組めるよう基礎・基本の定着が図れるような授業の設定をしているが、まだ十分できていない。
- 児童一人一人の考えを友達同士で交流する場面で、対話を通して互いを高め合いながら、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。
- 授業規律は「上二小での生活や学習の基本とするルール」に基づき、徹底していく必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を図るために、「上二小での生活や学習の基本とするルール」、「あいさつのレベル7」を基に、学習や生活で基本とするルールの徹底を図る。
- 「上二小授業スタンダード」として、単元及び1単位時間の学習の流れや板書の仕方を共通にし、問題解決型・探究型の授業の基本スタイルとして実施する。特に「読み解く力」を高める取り組みを全教科で推進していく。
- 個に応じた指導の充実を図るために、算数少人数加配教員や学力向上専門員を活用した、習熟度別指導など指導形態を工夫し、基礎・基本の定着・向上を図る。
- 校内研究は教科を国語科に絞り、「主体的に学ぶ児童の育成」を目指し、「読み解く力」の基礎的読解力6つの分類を意識した授業研究を行うことで、教員の授業力向上を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○「上二小授業スタンダード」として、学習の流れを①課題・めあての提示②予想・見通し③自分で考える④友達と考える⑤まとめ⑥振り返りとし、主体的で、対話的な学習を各教科・全学級で進める。	○「友達と考える」活動を重視し、自分の考えと比較したり、異同を考えたり、言語にして表現したりする。 ○ペア・トリオ・グループの学習を効果的に取り入れるとともに、思考ツールを積極的に活用する。	○本時の具体的なめあてを提示し、児童がめあてに対して振り返りを行う時間を毎時間設定する。 ○児童の作成したノート・作品等を丁寧に評価する。また、校長からの「ノート賞」授与を通して、書く意欲の向上につなげる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○授業の準備、はじめ、ノートの記入、発表の仕方、話の聞き方、授業の終わりなど、それぞれに細かくルールを設けている。 ・姿勢を直し、あいさつをする。 ・黙って、まっすぐに手を挙げる。 ・「はい」と返事をして立つ。 ・相手や場に合った声の大きさではっきりと話す。 ・「～です。」「～ます。」といった丁寧な言葉遣いで話す。 ・話す人の方を向いて聴く。 ・最後まで黙って聴く。 ・次の授業の準備をする。	○全学級でICT機器を効果的に活用し重要な部分を拡大して提示したり、児童の考えの共有化を図ったりする。 ○ICT支援員を計画的に配置し、授業における情報活用力を高めていく。 ○グループ学習用のホワイトボードや文具類を充実させ、積極的に活用する。 ○特別に支援が必要な児童を含めた全児童に対応するために、ユニバーサルデザインや合理的配慮に対応した教室環境に努める。 ○タブレットパソコンを活用し、登校できない児童に授業を配信し、学習支援をする。	○タブレット端末を使った授業の研修会や日常的にmeetやclassroomを使うことで、教員がICT機器を活用した指導力向上に努める。 ○研究推進委員会を中心に校内OJTを年間11回行い、若手を中心に教員の指導力向上を図る。 ○学びのエリアで「読み解く力」を育成するために4校共通の取り組みを実践する。また、今年のテーマを「ICT機器の活用」とし、情報交換や授業研究を行うことで、小中一貫教育をねらった授業力向上に努める。

